すごろくで学ぶ明治初期の学校制度
子どもたちは何故小学校に通わないの？

－明日からできる歴博貸し出し教材の活用－

千葉県立船橋芝山高等学校　　竹中　理

１．実施した学年及び教科・領域

高等学校第３学年日本史Ａ選択１クラス（38 名）　地理歴史科・日本史Ａ

２．学習のねらいと博物館の活用との関連について

（１）単元名

第１編　近代の日本と世界　第２章　明治維新と近代国家の形成　８　文明開化

（２）ねらい

①学習指導要領との関連

高等学校学習指導要領・地理歴史編日本史Ａの「２　内容（２）近代の日本と世界ア　近代国家の形成と国際関係の推移」には「近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。」とある。また、「３　内容の取扱い（３）イ資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を高めること」とある。そこで、単元の学習にあたり、明治の学校制度を取り上げ、明治初期の絵双六を資料として活用する。そして、生徒に双六を実際に体験させながら、マス目に描かれた情報を抜き出して考えさせ、当時の小学校で行われた教育手法や教育内容の特徴に気づかせる。また、近代学校制度に対する人々の意識についても考えさせることをねらいとした。

②単元の目標

○班の中で意見を交換し、興味を持って資料の分析や双六に参加することができる。（関心・意欲・態度）

○既習事項を踏まえて分析の結果を自分の言葉で表現することができる。（思考・判断・表現）

○画像や貸し出し教材などの様々な資料から必要な情報を抜き出し、関係性に気づくことができる。（資料活用の技能）

○明治の学校制度の特徴について理解する。（知識・理解）

（３）博物館との関連

①活用方法

「非来館型活用」

②活用資料

○「教訓小学寿語六」（資料番号Ｈ-952-10 歴博貸し出し教材）

○「就学杯」のレプリカ写真（歴博第５展示室展示資料）

○「春米（つきよね）学校」の模型写真（歴博第５展示室展示資料）

○ 絵双六の魅力

平成２７・２８年度の博学連携事業から継続して、絵双六を教材化する実践に取り組んでいる。絵双六はメディアとしての役割も持っており、マス目に書かれた情報を生徒に読み取らせることで、時代背景や作成意図を考察させることが可能である。また、実際にグループで絵双六を体験させることで、新たな気づきが生まれる。さらに、資料や博物館の展示を読み取らせて分かった内容をまとめるためのレポートの様式として利用することも可能である（(『学校と歴博をつなぐ　－平成２７・２８年度博学連携研究員会議実践報告書－』参照)。

平成２９・３０年度の博学連携事業では、時間的に制約が大きい日本史Ａにおいての実践を試みた。時代の特徴を視覚的にとらえやすい絵双六だからこそ、生徒が事項の関連付けや時代背景の読み取りを効果的に行えると考えたためである（平成２９年度は、歴博館蔵資料「日清戦争すごろく」（資料番号 Ｈ-965-228）を用いて当時の人々の戦勝を願う思いを考察させる実践、「三越双六」（資料番号Ｆ-457-10）を用いて百貨店が人々に購買意欲を持たせるための手段として双六を用いたことを考察させる実践を行った)。幸い勤務校は大判印刷用のプリンターが常備されており、班毎にカラー印刷した双六を配付することが容易である。しかし、多くの学校で双六を資料として用いた授業を展開する場合には、博物館等から画像を借りても準備に手間がかかる。ＩＣＴ器機を用いての画像読み解きも効果的だが、やはり双六を体験させた方がより気づきも生まれると考えた。

○ 歴博貸し出し教材の魅力

平成３０年度は、物理的ならびに時間的な負担を抑えた汎用性の高い実践を試みようと考え、貸し出し教材化された「教訓小学寿語録」を利用した。歴博の貸し出し教材を用いた実践については、「洛中洛外図屏風」・「江戸図屏風」・「戦時ポスター」についての優れたものが歴博Ｗｅｂページで閲覧できる。また、貸し出し教材についても、Ｅメールでの申し込み、無償（送料実費負担）で１週間の貸し出しが可能である（相談次第では、歴博の閉館時間に直接訪問してお借りできる)。

今回の実践で用いた「教訓小学寿語録」は、対象が小学校高学年から中学生となっているばかりか、貸し出し教材化されてから日が浅く実践例もない。しかし、事前確認させていただくと、赤絵と呼ばれる錦絵の複製のため、色鮮やかで目を引きやすく、マス目の情報量も多い。ポイントを絞って双六を読み解かせると、高校生の授業としても充分に時代背景を考えさせる資料となると思われた。さらに、マス目が歴史的な言葉遣いではなく現代語訳されているので、かえって高校生にも抵抗なく取り組めるのではないかと考えて利用した。

○　「教訓小学寿語六」（貸し出し教材は、８枚セットで付属解説も充実している。）

1874(明治７)年に東京小伝馬町の版元の長谷川其吉によって出版された絵双六である。マス目には、当時の学校での児童の勉学の様子が描かれており、学習内容や先生や子供たちの服装・教室環境・教具などから明治初めの学校生活の具体的姿を伺うことができる。「問答」「復読」「単語図」「連語」「体操」といったマス目からは、道徳を重んじた江戸時代の儒学的学問から実学への転換が図られたことがわかる。また、習字、読み物、書き取り、算術など「教科」を勉強していたこともわかる。勉強方法として掛図を用いていたこともわかる。さらに、明治初期の小学校では厳格な試験進級制度が採用されたため、「不勉強」な場合には退学させられていた実態を「退校」のマス目から読み取ることもできる（貸し出し教材の付属解説を参照した）。

○　「就学杯」

○　「春米学校」

どちらも、歴博第５展示室で常設展示されているレプリカと模型資料である。レプリカは、1877（明治 10）年から山梨県で不就学児童と区別して就学を督励するためにつけさせたものである。また、模型は、地域住民からの多額の献金を得ながら、文明開化の象徴として、山梨県令・藤村紫郎が小学校教育の普及のために建築を推進した擬洋風建築物である。

（４）指導観

勤務校の教育課程は３年次より文理の類型が分かれる。日本史Ａは類型を問わず選択が可能な科目（自由選択科目）である。大学受験を強く意識した者と卒業に必要な単位の一つとして捉えている者とが混在しているが、本校にあっては日本史に対する興味・関心が比較的高い生徒が選択している。

明治の学校制度は近代化の柱の一つであり、小学校教育は明治の終わりころには就学率が 90%を超えるまでとなり、定着する。しかし、「教訓小学寿語六」が作成された学制発布直後(1874 年)は、決して小学校に通うことが当たり前な時代ではない。当時の人たちが小学校に対してどのような意識を持っていたのか、どのように小学校教育は行われていたのかを考えさせる材料として双六を用いることで視覚的なイメージを持ちやすいと考えた。マス目には、当時の小学校での教授法や勉強した「科目」、さらには落第があった様子などがわかりやすい絵として表現されている。義務教育が無償で、誰もが学年進級する小学校が当たり前と考えている高校生の意識を揺さぶることができるのではないかと考えた。

３．指導計画（単元全体で１６時間配当し、歴博資料活用授業はその中の２時間扱い）

（１）１時間目

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	5 分	○前時の復習をする。 ・明治の近代化政策に関する教師の質問に答える。 ○班を編制する。 ・班別学習を行うことを確認し、班毎にワークシートを受け取る。 ○本時の予告を聞く。 ・明治初期の教育制度を学ぶことを確認する。	□発問して、近代化政策の例を答えさせる。 □クラス固定の授業ではないので、できるだけ速やかに班を編制させられるよう援助する。
展開	40 分	○「学事奨励に関する太政官布告」の資料を読む。 ・特徴を理解する。 ○貸し出し教材の「教訓小学寿語録」を行う。 ・ルールの説明を受ける。 ・事後の課題を行う。 課題 ・マス目に記されている語句は何か。学んでいる内容は何か。	□資料は読み下し文を読ませ、特徴となるところに傍線を引かせる。 ■資料を読んで、学制の特徴をつかんでいるか。〈観察、知〉 □班ごとに貸し出し教材を渡す。 ■双六のルールについて理解しようとしているか。〈観察、関〉 ■班員と協力して双六に取り組んだり、マス目の読み解きを行うことができていたか。 〈観察・ワークシート、関・思〉

		・明治初期の小学校の教え方の特徴は何か。 ・「退校」のマス目設定理由 ・遊ぶ子供たちに何を伝えようとしているか。	■ワークシート中の「寺子屋」の様子を示した絵を観察し、明治の小学校との違いを考えられたか。 〈観察・ワークシート、技〉 □寺子屋で用いられていたテキストについて紹介する。
まとめ	5分	○ワークシートを回収する。 ○双六の道具を片付ける。 ○次回の予告を聞く。	■ワークシートに課題の解答が書けているか。 〈観察・ワークシート、関・思〉

（２）２時間目

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	10分	○前時と本時のワークシートを受け取る。 ・マス目の解説を聞く。 ・双六作成の意図についての生徒の意見を読む。	□本時のワークシートには、前時の課題に関する生徒意見を集約したものを載せる。 □代表的な意見をとりあげる。
展開	30分	○就学率の変遷を示したグラフを読む ○ワークシートの資料「第二大学区巡視功程附録」(『文部省第四年報明治九年』) を読む。 ・小学校が忌避された理由がわかる部分に傍線を引く。 ○教師の説明を聞く。 ・教育内容について ・当時の小学校教育が有償であったこと ○就学を奨励した手立てについて学ぶ。 ・「就学杯」の画像 ・「春米学校」の画像 ・教科内容の変化 ○就学率が上がったのはいつごろからかを学ぶ。 ・グラフの年を調べる。 ・何があったかを調べる。 ○明治の教育制度の変遷について整理する。	■学制施行当初の就学率の低さが読み取れたか。 〈観察・ワークシート、関・思〉 ■当時の人たちのニーズに小学校教育が応えていなかったことに気づけたか。 〈観察・ワークシート、関・思〉 ■現在の小学校と当時の小学校との違いについて理解できたか。 〈観察・ワークシート、関・知〉 □ワークシートの写真を見て、考えさせる。 ■それぞれの手立てを行った理由を考察できたか。 〈観察・ワークシート、関・思〉 ■グラフの年（明治25年頃）から、経済の変化や社会の変化を読み取れるか。 〈観察・ワークシート、関・技〉 ■明治の教育制度の変遷について理解できたか。

		・資料集を参照する。 ・板書を写す。	〈観察・ワークシート、知〉
まとめ	10分	○2時間の授業のまとめの課題と感想をワークシートに記載する。	■ワークシートに課題・感想が書けているか。 〈観察・ワークシート、関・思〉

４．実践の概要

約２時間で実践した。実践で使用したワークシートは、最後に掲載した。

（１）１時間目

まず、ワークシートに載せた「学事奨励に関する太政官布告」を読み、学制の特徴である国民皆学・立身出世主義・功利主義について説明した。次に、江戸時代の寺子屋の様子や教材がわかる往来物の絵について説明した。

この後、貸し出し教材「教訓小学寿語六」の実践を行わせた。４クラスからの生徒による選択授業であったが、班編制や双六の実践も円滑に進んだ。双六を上がった者から、ワークシートの問いに取り組ませ、授業後に回収した。ワークシートの設問と解答例は、次のとおりである。生徒の解答例は、２時間目に集約して提示した。

a　マス目の名称を以下に全て挙げてください。

b「問答」「単語図」のマス目の絵を見て、左側の「寺子屋」や「往来物」の絵と比較し、明治初期の小学校ではどのような授業方法が行われていることがわかりますか。

〈解答例〉
- 集団で一つのことを勉強している。
- しっかりと並んで椅子にまっすく座っている。
- 世界地図を勉強している。
- 掛け図を用いて勉強している。
- 書道や体操を学んでいる。
- 黒板を使用している。

c「退校」というマス目があるのはどうしてだと思いますか。

〈解答例〉
- 生徒指導（悪いこと、いけないことをしたから）。
- しっかりと勉強しないと追い出されることをわからせる。
- 成績が悪いと学校を辞めさせられる。

d　時間内に上がれましたか。

３８人中１３人が上がっている

e　実際に遊んでみて、このすごろくの制作者はあそぶ子どもたちに何を伝えようとしているとあなたは考えますか。（上がりは「生徒列を整え教場に進む図」）

〈解答例〉
・学制のしくみを浸透させるため。
・当時の授業はどんなものを習わせていたかを伝えるため。
・学校での一日の流れをわかりやすく理解させる。
・しっかりと勉強しなければ上がれないということを伝えている。
・学校はいろいろな授業があり、みんなが集団で行動し全員共通のものを学ぶところだと伝えるため。
・大事な学ぶべき教科を伝えるため。
・昔の教育現場が今と変わらないことを伝えるため。
・昔の教育方法を今に伝えるため。

（２）２時間目

まず、ワークシートに１時間目の設問に対する生徒の意見を簡潔に集約して載せ、マス目の説明をした。特に、生徒の誤解がわかった「退校」のマス目については当時の小学校では進級が難しかった様子と合わせて解説を加えた。

次に、就学率のグラフから、学制が発布されたにも関わらず子どもたちが小学校に通わなかった様子を読み取らせた。就学率が低かった理由については、「近代学校教育制度の確立と家族」（小山静子『岩波講座日本歴史　第 16 巻』）に記載されていた「第二大学区巡視功程附録」（『文部省第四年報　明治九年』）をもとに考えさせた。学校に通わない理由が、人々のニーズと明治政府が小学校教育に対して求めていたこととの相違によることをとらえさせた。就学率が上がらない中で、地域によって行われた就学率を上げる手立てについて、歴博展示資料である「就学杯」と「擬洋風建築」の画像を用いて説明した。ここまで説明した後、生徒が所持している『図説日本史通覧』（帝国書院）の該当ページを利用して、明治の教育制度の変遷を年表風に整理した。

生徒によるまとめの時間が授業内ではとれなくなったため、家庭学習として論述の設問を二つ課した。そのうちの一つでこの双六の作成理由を字数を決めて再考させた（以下、設問である）。

①　学制が発布されたにもかかわらず、当初小学校に児童が通わなかった理由を 100 字程度で述べよ。
②　「教訓小学寿語六」が作成された理由はどうしてだと思うかを 50 字程度で答えよ。

５. 成果と課題

（１）成果

・「教訓小学寿語六」の教材化･･･視覚的効果と思考の深まり

１時間目の授業で、双六を実践させた直後に課した問いに対して、生徒は様々な気付きをしていた。「明治初期の小学校での授業方法」については、一斉授業の様子や科目の勉強をしたことを双六のマス目から読み取れている。また、「双六作成者の意図」については、小学校での勉強内容の紹介、集団行動や勤勉さを説いたと考えている。

２時間目の授業では、マス目の解説を済ませ、就学率の低さの理由について考えさせた。授業時間内で課題を書かせられなかったため、二つの論述を家庭での課題とした。前者の「児童が当初小学校に通わなかった理由」については、授業で説明した内容を整理して理解できているかを確認することをねらった(「知識・理解」の観点を確認した)。①費用の面（無償ではない）②学習内容の面（手習いが学べず、日常生活に必要な実学ではない）③子どもの位置づけ（労働力として認識されており、小学校に拘束されたくない）の３点を踏まえた解答を、多くの者が仕上げてきた。全て講義形式で説明したときよりも、双六を実践させて書かせたことで、当時の小学校の学習内容をイメージしながら解答できていた。

また、後者の「双六作成者の意図」については、授業のまとめとして再考させたものである（「思考・判断・表現」の観点を確認した)。すると、次の２点、①学校に行く必要性（教訓）や学校とはそもそもどんなものかを教えた②学校の紹介（一日の流れ、教育内容等）を意識したという解答に収斂した。生徒は、双六が容易に教養や情報を入手できるツールだったと捉えていることがわかる。時数制限を課したこともあり、1 時間目の双六実践直後にワークシートに記載させた時よりも、自分の言葉で述べた意見が増えた（以下に、生徒の意見を抜粋する)。

確かに、この貸し出し教材は、高校生対象ではないものである。しかし、１時間目のワークシートに対する生徒の解答や授業後の感想（「教科書を読むよりも絵と文字があったから一目で分かった」「遊びながら学べた」）などから、生徒は貸し出し教材を用いた授業やその視覚的効果を好意的に捉えていたこともわかる。

また、マス目の読み解きについても思考が深まっている。「退校」というマス目は、解説を加えずに行った１時間目の授業では、生徒の中には不適切な行為をして謹慎処分となった（いわゆる高校でいう特別指導）と捉える者もいた。試験を用いた当時の厳格な進級制については、意識が及んでいなかった。しかし、授業後の感想の中で、「上がるのが難しかったことを考えると進級が難しかったのだろう」「成績が悪いと退校しなければならないのは厳しい」と授業内容をふまえて明治の小学校についての捉え直しができていることもわかった。

以上のことから、貸し出し教材である「教訓小学寿語六」を用いたことで、生徒は主体的に学習に取り組めており、単元目標達成に近づけられた実践となったと考える。

〈双六の作成意図に関する生徒の意見（家庭学習課題から)〉

- 学校での一日の流れやどんな授業があるか、それが全員共通のものを学ぶところだということを遊びを通じて伝えようとしている。
- 学校へ行く必要性を説き、就学率を上げるとともに、何が必修なのかを楽しく理解させ、こどもたちの意欲を高める。
- 最初は就学率が低かったから、少しでも上げるために作った。遊び感覚で勉強してもらえるようにしたかった。・双六ではなく、寿語録と思った。卒業の難しさと退学のたやすさを表現したのではないか。
- 全員が同じゲームをすることで、一日の学校の流れをわかりやすく伝え、全員が同じ授業(集団授業)を受けるということ、個人の行動を制限していることを認識させる。

・学校での一日の流れをわかりやすく説明、理解させるためと遊びを通じて勉強がどういうものかを伝えようとしている。
・いろいろなことを学んで、修得していかなければ上がることはできないということを遊びを通じて、子供たちに教えるため。
・江戸時代の寺子屋との違いと小学校の仕組みをあそびながらでも分かるようにと後世へ伝えていけるため。
・今までの勉強から内容が大きく変わるため、こんなことをやるんだということを双六を遊びながら理解してもらおうとした。
・しっかりと勉強しないと先には進めない、進めていたとしてもすぐに進める人と時間がかかる人がいるということを伝えようとした。
・学校の制度をわかりやすく理解できるようにするため。すごろくにすることによって普通に学ぶよりも覚えやすいから。
・実際に学校に通う子供は少なかったため、興味・関心を強めるとともに、学校はそもそも何をするところなのかを知って欲しかったから。
・学校での一日の流れを表していて、当時はあまり学校に行かなかった子供たちでもわかりやすいように勉強とは何かを伝えようとした。
・すごろくを使うことによって科目や退校の意味などを伝えようとしている。
・遊びをさせる中で勉強の大切さを教えようとしたから。しっかりと勉強しないと進級できないということを分からせるため。

（２）課題

・資料の取り扱いの難しさ

貸し出し教材は、1874 年（明治 7）に作成されたものを歴博が複製したのだと説明しておいたが、生徒たちの中には明治の教育を学ばせるために現代に教材として作成された双六だと勘違いしていた者もいた。生徒の前で、実物画像と比較する必要もあったのかもしれない。さらに、各時代の双六は遊具であると同時に、メディアとしての役割も果たしている。拡大印刷して用いる場合にも、できるだけ実寸大で提供する方が作成意図を考えさせやすいと思われる。

・資料の丁寧な読み解き

「教訓小学寿語六」が作成された 1874 年は、師範学校での経験を生かした「下等小学教則」が改正された年に相当する。マス目には、この教則に定められた教科や教授法が記されていることから、双六作成と「下等小学教則」とが深い関連があったと思われると授業では生徒に伝えた。（授業実践後に改めて調べてみると、マス目の掛図や単語図などは、改正前の 1873 年のものが描かれていることがわかった。）

実践した様子を報告した博学連携研究員会議の中で、歴博の樋浦先生からは「ふり出し」のマス目が師範学校となっている点、双六のマス目に描かれている教師が当時まだ珍しかった洋装をしている点等に注目ができることを教えていただいた。さらに、先生からは、師範学校では、従来までの寺子屋師匠とは違った新しい教育を担う指導者を養成したため、この双六は先生の養成をアピールをするために作成されたとも考えられると教えていただいた。新しい教育を学ぶ者だけでなく、教える者という視点を踏まえて、

この双六を生徒に観察させると、今回の実践はより深まったと思われる。次の機会には、描かれている児童・教師の服装や髪型、教室の椅子等、ポイントを絞って生徒に観察させたい。

・時間の精選

時間に制約のある日本史Ａで行ったため、事後課題を家庭学習とすることで時間の確保を図った。実際に生徒も思った以上にしっかりと課題を行ってきていたことがわかったので、今後も事後課題方式で実践が可能だと思われる。しかし、今回の実践では、時間制約のある中で絵双六の作成意図を考えさせることを意識しすぎてしまい、絵双六を資料として観察させ、生徒の気づきを集約して発問に利用することが充分にできなかった。次の機会には、時間制約を意識しながらも、「どのように絵双六を資料として観察させ、気づきを発問としていくか」をより工夫して実践したい。

６.主要参考文献ならびに使用したワークシート等

（１）主要参考文献

市川寛明・石山秀和　『図説　江戸の学び』（河出書房 2006 年）

海後宗臣編『教科書でみる近現代日本の教育』（東京書籍　1999 年）

小山静子　『子どもたちの近代　学校教育と家庭教育』（吉川弘文館　2002 年）

小山静子　「近代学校教育制度の確立と家族」（岩波書店『岩波講座　日本歴史第 16 巻　2014 年）

斉藤利彦　『試験と競争の学校史』（平凡社　1995 年）

森川輝紀　「立身出世主義と近代教育」（山川出版社『新体系日本史 16　教育社会史』2002 年）

（２）使用したワークシート等

①「第二大学区巡視功程附録」（『文部省第四年報　明治九年』）

従来の寺子屋に比すれば方今の学校は人民の費用十倍の多きに及ぶべし。従来の寺子屋にてもいやしくも入学したる者は手覚えの帳を記し、親類へ手紙の往復位はなし得べし。方今の学校善美なりといえども、下等小学校卒業に至らざるの前に退学するときは（かくの如きもの多しと聞けり）日用の便利はかえって寺子屋に及ばざることあり・・・（中略）・・・又修業時間も旧来の寺子屋にては大抵八時より昼十二時を以て限りとなしたる者なるが、方今の学制にては都鄙一般九時より三時に至る（ある県にては九時より四時に至る者あり）を以て、生徒等家事の助けを為すの暇なし。かつ一年修学の間尋常の休日のほかはことごとく出席せざるを得ざるの法なり。

小山静子「近代学校教育制度の確立と家族」掲載の「第二大学区巡視功程附録」『文部省第四年報　明治九年』

②１時間目に使用したワークシート

日本史プリントNO　　(3)年(H)組(　)番(　　)

1　明治維新と近代国家の形成

(3) 学校教育の成立　教p53, 68

①近代教育制度の開始…学制の発布（1872年）

フランスの学校制度にならった近代的学校制度に関する法令。

全国を8大学区とし，1大学区を32中学区，1中学区を210小学区に分け，

それぞれに学校を画一的に設置した。

※学制序文から明治政府のねらいがわかるところに傍線を引こう

・男女の別なく国民皆学

・個人主義・功利主義・立身出世主義の教育

学制序文（学事奨励ニ関スル被仰出書）

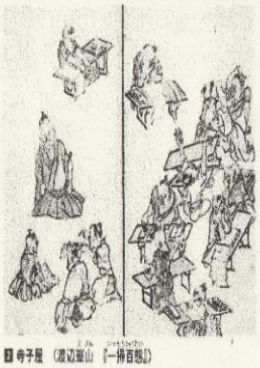
人々が自らその身を立て、生計を支え、家業を盛んにしてその人生を送ることのできる理由はほかでもない。自分の行いを正し、知識を広め、才能や技芸を伸ばすことに依るものである。そして、行いを正し、知識を広め、才能・技芸を伸ばすことは、学ばなければ不可能である。これが学校を設ける理由であり、普段の行動・営業違い・読み書き・計算を初め、士族・官吏・農民・商人・工人・技芸及び法律・政治・天文・医療等に至るまで、およそ人の行うことで学問によらないものはない。人はよくその才能に応じてつとめ励んで学問に従い、そして初めて財産を増やし家業を盛んにすることができる。だから学問は、身を立てる資本ともいうべきものであって人たるものは誰でも学ばなければいけないのである。…（中略）…

これによってこのたび文部省において学制を定め、段々に教則も改正して布告する予定であるので、今後一般の人民は（華族・士族・農民・工人・商人及び婦女子を問わず）必ず村に不学の家などなく、家に不学に人なといないことを目標としなければならない。人の父兄たるものは、よくこの趣旨を認識し、いつくしみ育てる気持ちを強く持って、その子弟を必ず学校に通わせるよう

↙習い

※江戸時代の教育…庶民は寺子屋，武士の子弟は藩校で学んだ。

男女差・職業の違い・跡取りか否か等に応じて分相応の教育を受けた。



寺子屋（渡辺崋山『一掬百想』）

「百姓往来」　「商売往来」

②「教訓小学寿語六」（1874年出版の絵双六，実際のサイズ：縦35.50 cm 横48.00 cm）から，当時の小学校の様子を探ってみよう。（班員名　　）

aマス目には，当時の小学校で行われた教授方法・児童が学んだ教科が描かれています。マス目の名称を以下に全て挙げてください。

算術，より，習字，体操，書取，問答，復読，単語図，連語

読物，ふり出し，退校

b「問答」「単語」のマス目の絵をよく見て左側の「寺子屋」の絵や「往来物」の絵と比較し，明治初期の小学校ではどのような授業方法が行われていることがわかりますか。

集団で横一列に並んで，世界地図などを

みんな共通で授業をしている

c「退校」というマス目があるのはどうしてだと思いますか。

勉強しないで，退校してしまう人がいたから

dあなたは，時間内に実際にあがれましたか。（ Y or (N) ）

e実際に遊んでみて，この双六の制作者はこの双六で遊ぶ子供たちに何を伝えようとしているとあなたは考えますか。（上がりは「生徒列を整え教場に進む図」となっています。）

学校は，いろいろな授業があり，みんなが集団で行動し

全員共通のもの学ぶところだということを伝えるため．

このプリントの裏面に、「教訓小学寿語六」の画像印刷したものを載せた。

問答：教師が質問し，児童が答える。

復読：教師が発した言葉をまねて反復練習。

単語：教師が掛図を指して，一語一語児童が答える。

連語：単語を組み合わせて文章化したもの。

体操：現在の新体操に近いもの。

図の出典　寺子屋の図（『高等学校日本史Ａ　最新版』清水書院 2014年）

往来物の図（海後宗臣編『教科書でみる近現代日本の教育』東京書籍 1999

③２時間目に使用したワークシート

日本史プリントNO.13　　(3)年(E)組(　)番(　　)

1 明治維新と近代国家の形成

(3)学校教育の成立　教p53, 68

③「教訓小学奔語六」から読み取れること。…上がれた人は１３人

明治初期の小学校の授業方法…みんなの意見の強弊

しっかりと椅子に並んで座っている，壁に資料・絵などをかけて指し棒で教えている，集団で横一列に並び世界地図などをみんな共通で授業している，黒板の使用

↓

江戸時代の寺子屋と異なり，一斉授業で習字・読み物・書き取り・算術といった教科が教えられた⇒なぜ？ 近代化に必要な実学を教えるため必要

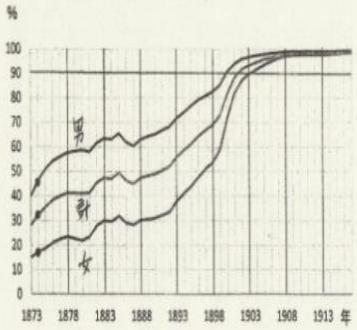
退校…素行が悪いからではなく

江戸時代までの身分または居住地が異なる児童が入学して学習していたため厳格な進級制度が採用された。功利主義的・自由主義的な教育方針がとられ，試験で合格できない＝留級できていないとされ進級できず，退校措置がとられた。

進んでみて制作者は何を伝えようとしていたと思いましたか。…みんなの意見の強弊

学校での一日の流れをわかりやすく説明・理解させるため。習字と算術が必修科目。近代的な教科になるにしたがって上がりに近く配置されている。しっかりと勉強しなければ教場に進めないということ伝えている（すぐに教場に進んでいける人と時間がかかってしまう人がいることを伝えている）。学校はいろいろな授業がありみんなが集団で行動し，全員共通のものを学ぶところだということを伝えるため。遊びを通じて勉強はどういうものかを伝えようとしている。

④ 小学校就学率の変遷



男　計　女

1874年（双六制作年）…男女計で31％。男子よりも女子の就学率は（高い・低い）。

男女計の就学率が90％を超えるのは…（1900年よりも前，1900年よりも後）。

選んでみよう

⑤ 小学校が忌避された理由は…当初，就学率が上がらないのは何故？

従来の寺子屋に比すれば方今の学校は人民の費用十倍の多きに及ぶべし。従来の寺子屋にてもいやしくも入学したる者は手覚えの候を記し，親類へ手紙の往復位はなし得べし。方今の学校善美なりといえども，下等小学校卒業に至らざるの前に退学するときは（かくの如きもの多しと聞けり）日用の便利はかえって寺子屋に及ばざることあり：（中略）：又修業時間も旧来の寺子屋にては大抵八時より昼十二時を以て限りとなしたる者なるが，方今の学制にては都鄙一般九時より三時に至る（ある県にては九時より四時に至る者あり）を以て，生徒等家事の助けを為すの暇なし。かつ一年修学の間毎常の休日のほかはことごとく出席せざるを得ざるの法なり。

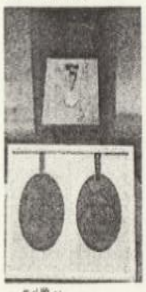
小山静子「近代学校教育制度の確立と家族」梅根悟「第二大学区巡察功程附録」『文部省第四年報　明治九年』

理由がよくわかるところを３カ所探して，傍線を引いてみよう。

学校は学費なし　手習い教えてくれない　費用は自分持ち

※明治政府は　近代化を推進するために「国民」に必要な実学を教えようとした。
人々は日常生活に必要なことを学ぶことを望んでいた。

⑥ 就学率をあげる手立て



就学札

撮影風景模様

⑦ 明治の教育制度の変遷（資p240）…就学率が上がるのは

1872年　学制…画一的義務教育開始

↓

1879年　教育令…アメリカの今為，町村単位，教室

1880年　改正教育令

1886年　学校令…義務教育3年or4年，国の統制。

1890年　教育勅語…「忠君愛国」をめざす。

1900年　義務教育無償化

1907年　義務教育6年

みました

④事後課題

事後レポート　（3）年（D）組（　）番（　　）

1　明治政府は，学制を発布して近代教育制度をめざし，わずか30年ほどで小学校の就学率は100%近くになりました。しかし，当初は就学率があがりませんでした。その大きな理由はどんな点にありましたか。100字程度でまとめてください。

明治政府が学制を発布した当初、就学率が上がらなかった。その理由として1つ目に上げられるのは寺子屋と比べ費用が多いということ。2つ目は、日常で使えるものが多くないということ。3つ目に拘束時間が長いということ。この3つの理由により就学率はあがらなかった。

2　「教訓小学寿語六」が作成されたのはどうしてだと思いますか。学んだことや友達の意見を参考にして，再度あなたの考えを書いてください。（50字程度で）

一日の学校での流れをわかりやすく伝え、全員が同じ授業を受けるということを全員が同じゲームをすることで認識させるため。

3　国立歴史民俗博物館から借用した双六を利用して，明治の教育制度について学習した感想を書いてください。

明治初期の教育制度を身近に伝える方法として双六を使ったのはいい考えだなと感じた

上がりにいくのが難しかったのを考えると進級なども難しかったのかなと感じた

事後レポート　（3）年（E）組（　）番（　　）

1　明治政府は，学制を発布して近代教育制度をめざし，わずか30年ほどで小学校の就学率は100%近くになりました。しかし，当初は就学率があがりませんでした。その大きな理由はどんな点にありましたか。100字程度でまとめてください。

当初は寺子屋に比べられていて、習うものは寺子屋では手習いを教えていたが小学校では教えてくれなかったのと労働力であった子供が寺子屋より拘束時間が長かったので行かせなかった為寺子屋より多額の費用が必要だったため小学校に行く意味がなく当初は小学校の就学率があがらなかった

2　「教訓小学寿語六」が作成されたのはどうしてだと思いますか。学んだことや友達の意見を参考にして，再度あなたの考えを書いてください。（50字程度で）

学制について認識してもらうため わかりやすく遊びを用いて作成されたと思った。どんなことをするかわかってもらうため

3　国立歴史民俗博物館から借用した双六を利用して，明治の教育制度について学習した感想を書いてください。

教科書を読むより絵と文字があったからわかりやすかった 当時の子どもたちがどんなことを学んでいるのか一目でわかった。江戸の頃 何が違うのか違いがわかった。

⑤「事後課題」の生徒の意見を集約して提示したもの

日本史プリント　NO15　　（　）年（　）組（　）番（　　）

(3) 学校教育の成立（番外編）

博学連携（博物館と高校の授業を関係づける）の一環として，佐倉市にある国立歴史民俗博物館の貸し出し教材を用いた授業を展開しました。テーマは明治維新の中での「学校教育の成立」というものでした。国民皆学を目指した明治の教育制度改革は，わずか30年ほどで小学校の就学率が100%近くになるという成果を上げました。しかし，当初はなかなか就学率が上がりません。その理由を，江戸の教育と比較して貰う中で，みなさんに100字程度の論述で考えて貰いました。みなさんは「①費用の面　②学習内容の面　③子どもの位置づけ（労働力として認識）」から意見を書いていました。

最後に総まとめとして，「教訓小学寿語録」が作成された理由を，再度考えて貰いました。以下はみなさんの意見を列記したものです。

「教訓小学寿語録」が作成された理由はどうしてか？（50字程度で）

※意見（みなさんが考えた仮説）は，次のように大きく別れたようです。

①学校に行く必要性（教訓）や学校とはそもそもどんなものかを教えるツール

②学校の紹介（一日の流れ，教育内容等）

- 勉強という生徒にとって嫌なことを双六という遊びを通して，学校の事柄を学ぶことができ非常により思い出考えさせることができる。
- 小学校は行いを正し，知識を広め，才能・技芸を伸ばすためにあるということを現代の子供たちに学ばせるため。
- 学校での一日の流れやどんな授業があるか，それが全員共通のものを学ぶところだということを遊びを通じて伝えようとしている。
- 学校行く必要性を説き，就学率を上げるとともに，何が必修なのかを楽しく理解させ，事ども立ちの意欲を高める。
- 昔の時代の教育制度を示すため。制度は厳しくその中でどう子供たちが教育を受けていったかを表すためだと思う。
- 学制について認識してもらうため，わかりやすく遊びを用いて作成されたと思った。どんなことをするかをわかってもらうため。
- 余り普段入ってこない情報を教え，試験に受かる人数を増やすため。
- 双六ではなく，寿語録と思った。卒業の難しさと退学のたやすさを表現したのではないか。
- 学校での一日の流れを理解させ，学校は集団授業で個人の行動をだめだと制限している。
- 一日の学校での流れをわかりやすく伝え，全員が同じ授業を受けるということを全員が同じゲームをすることで認識させるため。
- 学校での一日の流れをわかりやすく説明，理解させるためと遊びを通じて勉強がどういうものかを伝えようとしている。

明治5(1872)年8月に発布された学制には教科の規定がありました。これこそが江戸時代までの寺子屋とは大きく違ったものでした。当時人々の意識には，身分別・性別に教育は異なるものだという考え方が根強く存在していました。庶民は手習い塾（寺子屋）で日常生活に必要な手習いを，武士は藩校で漢学を学ぶと考えていました。

しかし，近代国家を目指した明治政府は，「国民」に対して近代化に必要な実学を義務教育として教えようとしました。人々にとっては直接必要でない多様な教育内容を教科として設定しました。学制では「綴字・習字・単語・会話・読本・修身・書簡（＝手紙）・文法・算術・養生法・地学大意・理学大意・体術・唱歌」を教科としています。学制発布の翌月には「小学教則」（小学校での教育課程を定めたもの）も公布されます。しかし，寺子屋から変わったばかりの小学校に，欧米を模範とした文明開化の教育内容を受けようというのは無理がありました。

そこで，学制の実施に当たって新しい教師・新しい教授法の伝習が必要となり，師範学校（現代の教育大学のようなもの）が設けられました。全国から生徒を募集して授業を始め，師範学校での経験を生かした「小学教則」，新しい教科書の編集がすすめられます。こうして明治6年（1873年）2月，「下等小学教則」と呼ばれる初めての教則が作られ，同年5月に改正，さらに7年1月に改正されました。明治7年のときの八級＝すなわち現在の小学校1年生相当が学んだ教科が「読物・算術・習字・書取・問答・復読・体操」だったのです。さらに，読物では単語図・連語図を用いることなど教授法についても定められました。

みなさんに実際に体験してもらった双六が作成された1874年というのは，改正されたちょうど「下等小学教則」ができたタイミングとなります。マス目も「下等小学教則」で定められた教科と合致しています。そうだとすると，次のような仮説（この双六が作成された意図）が見えてくる気がしませんか。この双六の作成者の立場がわからないので確かなことは言えませんが…。「上り」のマス目は，「教場に入る」＝「小学校の教室に入る」こととなっています。「上り」までのマス目で新しく定められた小学校の教科の様子や教授法の様子が紹介され…抵抗感をなくした上で，学校に是非学びに来てもらおう…。学問をして，自ら身を立て（＝立身出世）てもらう，それができないものは退校，本人の自己責任ということも伝えようとしていたのかもしれませんね。

明治の学制から始まる教育制度改革は，現代，メディアでも紹介されている「高大接続改革」「主体的で深い学び」などをスローガンとする教育改革が行われようとしている今と通じる一面もあります。しかし，明治初期の人たち（政府）にとってみれば，いちはやく教育内容の変化を伝える情報伝達手段はありません。そのためのツールとして，江戸時代以来広く製作されるようになっていた「絵双六」という手段は有効だったと考えられませんか。これから変化の激しいこの時代，あなたたちはどのように情報を入手していきますか？

（中略）・・・実際は生徒の意見部分がＡ４でもう１枚分ある。